

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-141 A-152	20-002	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
COVID-19 lockdown in India triggers a rapid rise in suicides due to the alcohol withdrawal symptoms: Evidence from media reports インドでの COVID-19 ロックダウンでアルコール離脱症候群による自殺が増加した：メディアの報告より		
執筆者		
Ahmed S, Khaium MO, Tazmeem F.		
掲載誌		
Int J Soc Psychiatry. 2020 Dec;66(8):827-829. doi: 10.1177/0020764020938809.		
キーワード	PMID	
COVID-19 ロックダウン インド 自殺 アルコール離脱症候群	32586209	
要旨		
<p>COVID-19 のインドの最初の症例は 2020 年 1 月 30 日にケーララ州で確認、3 月 12 日にはコロナウイルスによる初の死者が発生し、以来 4 月 21 日までに 46433 人が感染、1568 人が死亡した。3 月 25 日から 4 月 14 日までの 3 週間ロックダウンが全土で行われ、その後 5 月 3 日まで期間延長となった。ロックダウンにより、アルコール離脱症候群 (AWS) によるアルコール依存症が増加した。</p> <p>5 月 5 日、少なくとも 23 人が自殺、AWS 関連の自殺企図も確認された。全てインド南部で起こった。自殺者はすべて男性、大多数の 17 人がヒンドゥー教徒だった。年齢は 28 歳から 70 歳まで、内 15 人は 35 歳以上だった。15 人はロックダウン後 1 週間以内で自殺した。全ての自殺者データは 5 月 5 日から 25 日まで、国家の新聞およびウェブサイトから調査した。</p> <p>インドの 2005 年から 10 年間の自殺率は 10.6/10 万人で、17.3%増加している。2022 年までにインドでのアルコール消費量は 168 億 L と見積もられる一方、アルコール依存による自殺者の報告は過去 10 年では少なかった。アルコール消費量が多い南部ではロックダウン以後アルコール関連自殺者が認められ、この地域の健康問題が浮き彫りとなった。</p> <p>アルコール関連緊急症を予防するために、AWS 患者への対策が行われた。またインド全土での疫学調査を行い、アルコール依存程度の評価、飲酒量のデータ、消費量増加に関連する因子の更新等を実施し、AWS による今後の自殺者の減少につなげる対策を講じる。</p>		